

第1章 第4期計画の策定にあたって

1 計画の趣旨

地域福祉保健計画は、住民、事業者、公的機関などが福祉保健などの地域課題の解決に協働して取り組み、身近な地域の支えあいの仕組みづくりを進めることを目的とした計画です。社会福祉法の規定に基づき市町村が策定する「地域福祉計画」に位置付けられますが、横浜市では、福祉と保健の取組を一体的に進めるため、計画の名称を「地域福祉保健計画」としています。

横浜市では、市全体の計画である市地域福祉保健計画に加えて、18ある区ごとに策定している区地域福祉保健計画があります。

戸塚区では、市地域福祉保健計画の考え方を踏まえ、平成18年度から「戸塚区地域福祉保健計画（愛称：とつかハートプラン）」を策定しています。



2 計画の位置付け

(1) 横浜市中期4か年計画（2018~2021）との関係

計画期間の4年間で重点的に推進すべき政策のうち、「参加と協働による地域福祉保健の推進」と「参加と協働による地域自治の支援」において、地域福祉保健計画の推進が取組として位置付けられています。

(2) 福祉保健の分野別計画との関係

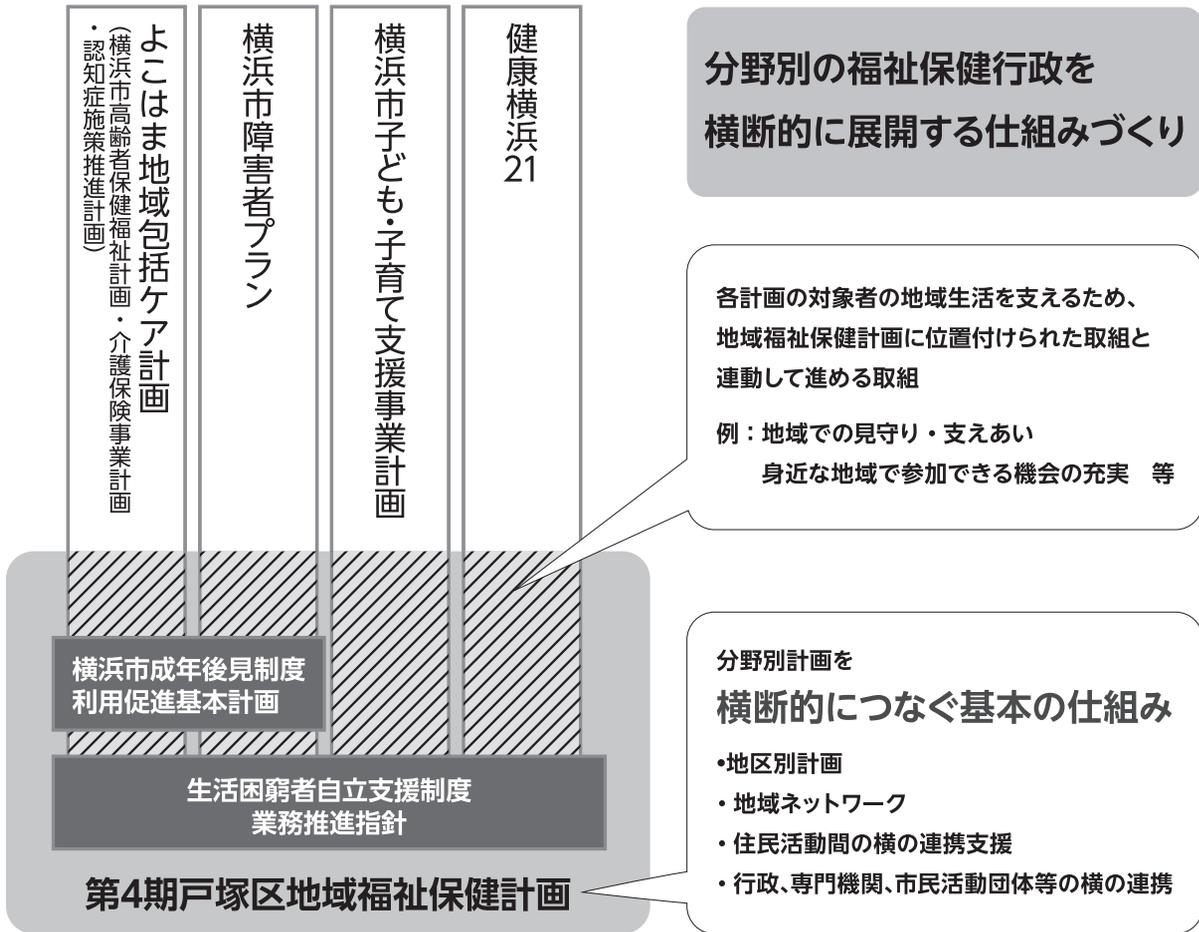
横浜市では、高齢者、障害者、子ども、健康といった福祉保健の分野ごとに、目指す姿や具体的な取組などをまとめた計画を策定しています。

地域福祉保健計画は、“地域”という視点で分野別計画を横断的につなぐことで、子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無、性別や国籍の違いに関わらず、全ての人の地域生活を支えることを目指すものです。

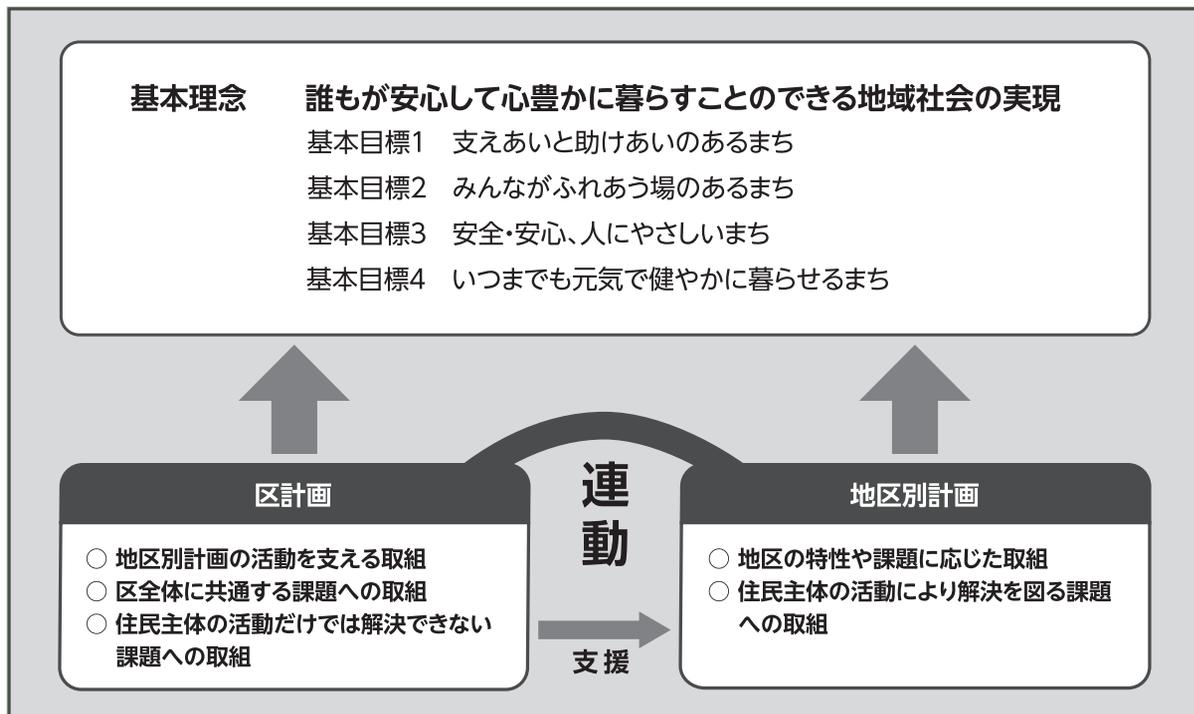
(3) 市地域福祉保健計画との関係

政令指定都市である横浜市の場合、福祉保健サービスの提供や地域特性に基づく取組の中心は区役所です。そのため、区ごとに計画を策定し、区の特性に応じた取組を進めています。

市地域福祉保健計画は、市としての基本理念や方向性を示すことにより、区地域福祉保健計画の推進を支援する計画として位置付けられています。



3 計画の構成



4 第3期計画の振り返り

(1) 計画全体の成果

区民や事業者、区役所、区社会福祉協議会（以下、「区社協」とします。）、地域ケアプラザなどが連携・協働して取組を進めたことで、全体として以下のような成果が得られました。

福祉保健の各分野で、ネットワークづくりが進みました

- 各分野で地域団体や関係機関による連絡会などが開催されました。
- 関係者間の情報共有が進み、共通する課題に取り組めるようになりました。

多様な社会資源と地域がつながり、連携した取組が進みました

- 大学や企業などによる健康講座やイベントが開催されました。
- 社会福祉法人や事業者などと地域が連携し、高齢者の見守りや移動支援など、地域課題を解決する取組が進みました。

各地区の実情に応じた取組が進みました

- 地区別計画が地域ケアプラザエリア単位から連合町内会自治会・地区社会福祉協議会エリア単位となり、とつかハートプランがより身近なものとなったことで、各地区の特性や課題に応じた取組が広がりました。
- 様々な取組を通じて、人と人とのつながりや交流が深まりました。

(2) 基本目標ごとの成果と今後の方向性

基本目標1 支えあいと助けあいのあるまち

- 地域の身近なところで見守り活動などが広がるとともに、事業者や関係機関などの多様な主体による見守り活動が展開されるようになりました。
- 両親教室や赤ちゃん訪問、子育てサロンなどを通じて、育児不安や孤立予防に向けた妊娠期からの切れ目のない支援に取り組みました。

写真

第4期計画への課題

- 地域でのゆるやかな見守りや支えあいの仕組みが求められています。
- 子育て支援に関わる事業者や関係機関のネットワークを強化し、地域で安心して子育てができる環境づくりが求められています。
- 福祉保健分野ごとのネットワークづくりが進んだ一方で、地域では複雑・多様化した分野横断的な課題が増えています。支援が必要な人を適切な支援につなげられるよう、既存のネットワー

クの枠を超えて地域団体と関係機関が課題を共有し、課題解決に向け、連携して取組を進める必要があります。

基本目標2 みんながふれあう場のあるまち

- 趣味や特技を生かした活動や地域活動への参加のきっかけとなる講座やイベントが、様々なところで開催されました。
- 地域における交流の場や居場所として、サロンやカフェ、子ども食堂などが増えました。

第4期計画への課題

- より多くの人々が活動につながるよう、取組を進める必要があります。
- 多世代交流がより一層広がるよう、多様な施設や学校などが連携した交流の場づくりを進める必要があります。

写真

基本目標3 安全・安心、人にやさしいまち

- 地域防災拠点の訓練や災害時に手助けが必要な人を支援する取組が行われ、地域の防災力が向上し、災害時の自助・共助が推進されました。
- 地域や学校、企業などで認知症サポーター養成講座や障害に関する講演会が開催され、認知症や障害がある人への理解が広がりました。

第4期計画への課題

- 日頃からの災害への備えやご近所同士のつながりを広め、助けあいの仕組みづくりを進める必要があります。
- 認知症や障害などがある人が地域で自分らしく暮らせるよう、多様性への理解が広がる取組を進める必要があります。

写真

基本目標4 いつまでも元気で健やかに暮らせるまち

- 健康や介護予防に関する講座やスポーツイベントなど、様々な健康づくりの場が広がりました。
- ウォーキングや元気づくりステーションなどの身近な健康づくりや介護予防の場を通じて、参加者同士の交流が深まり、活動の継続・発展につながりました。

第4期計画への課題

- 地域での様々な機会を通じて、健康や介護予防を意識した取組を広げることが重要になります。

写真

5 戸塚区のプロフィール

(1) 戸塚区の地勢

戸塚区は、横浜市の南西部に位置し、北は旭区・保土ヶ谷区の2区に、東は南区・港南区の2区に、南は栄区・鎌倉市に、西は泉区・藤沢市に接しています。

多摩丘陵の南端に位置し、区の中央部を柏尾川が南北に流れて低地を形成しており、その周囲を比較的起伏に富む台地が取り囲むように広がっています。

区の面積は、35.70km²と18区の中で最も広く、市域の8.2%を占めています。

人口は、280,733人で18区の中で4番目ですが、人口密度は1km²あたり7,864人で10番目となっています（令和2年1月1日現在）。

(2) 戸塚区の魅力

ア 歴史・文化を受け継ぐまち

鎌倉時代には鎌倉の玄関口として重要な役割を果たし、江戸時代には東海道の宿場町として栄えました。

昭和14年に鎌倉郡内の1町7村がまとまって横浜市に編入し、戸塚区が誕生しました。鎌倉郡と呼ばれていたことが物語るように、鎌倉文化圏であったことを示す遺産が数多く残されています。

イ 自然豊かなまち

区の中央部を流れる柏尾川とその支流である阿久和川や舞岡川、境川とその支流である宇田川など多くの河川があり、その周辺は豊かな自然に恵まれています。農地が集団的に保全されている農業専用地区が4か所あり、農業・農作業が盛んです。

公園の数も多く、広域公園から身近な街区公園まで合わせて224か所（令和2年3月31日現在。市立公園のみ。）あり、18区の中で2番目です。

ウ 賑わいのあるまち

戸塚駅と東戸塚駅を中心とした商業施設やオフィス拠点のほか、柏尾川流域や上矢部エリアなどを中心とした工場などの産業拠点があります。さらに、多数の病院や福祉施設の事業所もあり、働く場所が多彩に展開されています。

市立学校の数は、小学校、中学校、高等学校、特別支援学校を合わせて41校で18区の中で3番目です。そのほかにも、3つの県立高等学校と私立の中高一貫校、4つの大学があり、多くの児童・生徒・学生が学んでいます。

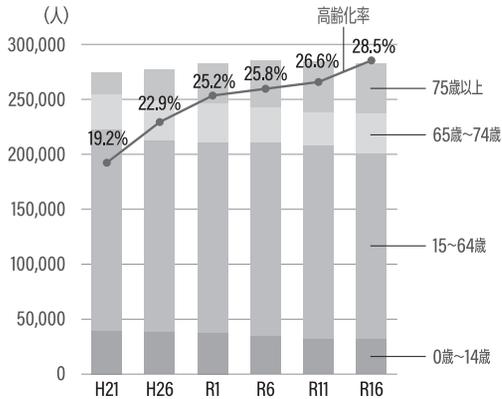
作成中



6 統計データから見た戸塚区

■ 年齢4区分別人口と高齢化率 ■

戸塚区の総人口は、ゆるやかな増加傾向で、安定した状態が続いています。年少人口（0～14歳）の減少と高齢者人口（65歳以上）の増加が予測されています。

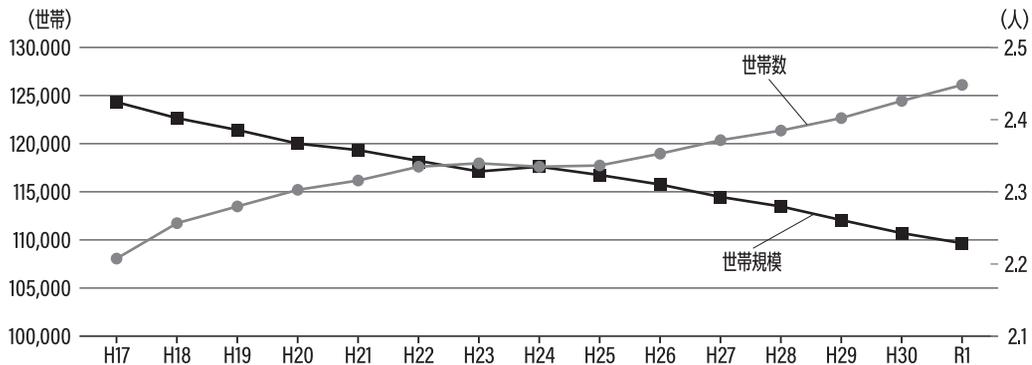


※ H21～R1 は実績値。
※ R6～R16 は推計値。

【出典】町丁別の年齢別人口（住民基本台帳） 各年9月末現在

■ 世帯数・世帯規模 ■

世帯数が増加している一方、世帯規模は縮小化しています。従来は家族で行っていた子育てや介護は、公的なサービスだけでなく、地域全体で支えていく必要性が高まっています。

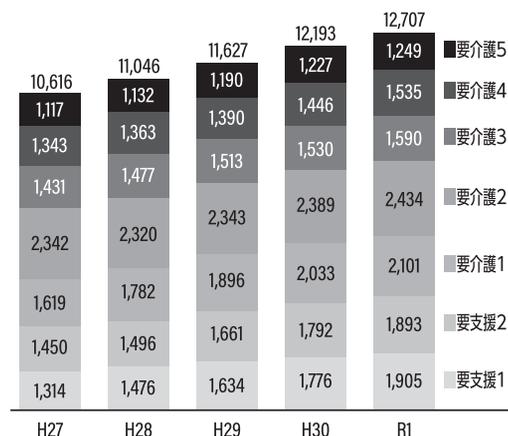


【出典】町丁別の年齢別人口（住民基本台帳） 各年9月末現在

■ 要介護・要支援認定者数 ■

高齢者人口の増加に伴い、要介護・要支援認定者数も増加しています。

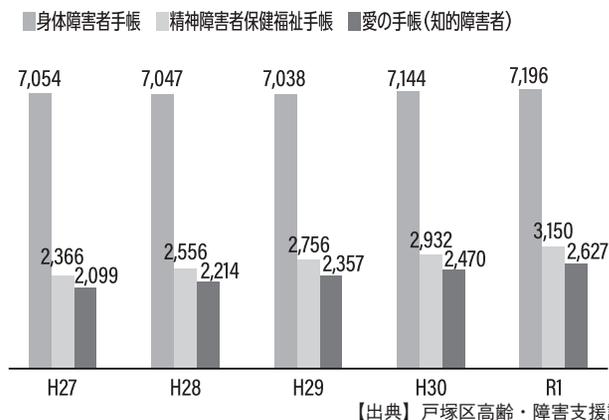
今後も、高齢者人口は増加することが見込まれていることから、高齢者を支える仕組みづくりに加えて、健康づくりや介護予防の取組を進めていく必要があります。



■ 障害者手帳所持者数 ■

平成27年度から令和元年度までの5年間で、精神障害と知的障害の手帳の所持者が増加しています。

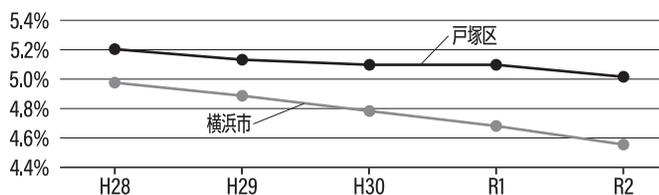
障害者が安心して暮らせる地域づくりが必要です。



■ 就学前児童数の人口に占める割合 ■

戸塚区の人口に対する就学前児童数の割合はゆるやかな減少傾向ですが、市全体と比較すると高く、減少速度もゆるやかです。

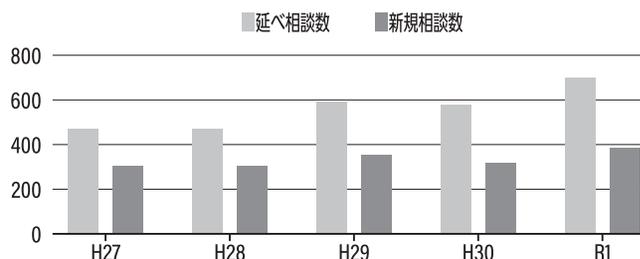
引き続き、安心して子育てができる環境づくりを進めていく必要があります。



【出典】 町丁別の年齢別人口（住民基本台帳） 各年3月末現在

■ 生活の困りごとに関する相談数 ■

これまでの支援制度では対応が難しい問題を抱えた人や生活に不安を感じている人が増えています。そのため、関係機関は分野の垣根を越えてより一層、連携をしていくことが求められています。また、地域では今後そのような人たちへの配慮や理解、助けあいを広めることが重要になっています。



【出典】 戸塚区生活支援課（生活困窮者自立支援制度の相談数）

7 第4期計画の全体像

基本理念

誰もが安心して心

戸塚区の現状

- **少子高齢化**
年少人口（15歳未満）は減少し、高齢者人口（65歳以上）は増加が続いています。
- **世帯の縮小化**
単身者や夫婦のみ世帯が増加しており、子育てや生活に不安を感じている人がいます。
- **介護を要する高齢者の増加**
2025年には団塊世代が75歳以上（後期高齢者）になり、要介護認定者や認知症高齢者のさらなる増加が見込まれます。

そのため…



- 困りごとを抱える人が孤立しないよう、地域のつながりづくりが必要です。
- 安心して子育てできる環境づくりが必要です。
- 高齢者や障害者が安心して暮らせる地域づくりが必要です。
- 健やかに自分らしく暮らすために、それぞれの健康状態に合わせた健康づくりが必要です。

基本目標

基本目標1

**支えあいと助けあい
のあるまち**

基本目標2

**みんながふれあう
場のあるまち**

基本目標3

**安全・安心、
人にやさしいまち**

基本目標4

**いつまでも元気で
健やかに暮らせるまち**

■第4期戸塚区地域福祉保健計画 4つのポイント

1 分野横断的な課題への対応

複雑・多様化する分野横断的な課題への確に対応するため、子ども、高齢、障害などの分野を越えた目標を設定

2 関係機関の連携強化

区役所、区社協、地域ケアプラザの三者が適切に役割分担し、緊密に連携しながら取組を推進

豊かに暮らすことのできる地域社会の実現

目指す地域の姿

- 誰もが地域の一員として、日頃のあいさつや声かけなどで顔の見える関係を築き、身近なところで支えあい助けあいができる、お互いさまの関係づくりが進んでいます。
- 妊娠期からの切れ目のない子育ての支援や介護者等が安心できる仕組みが整っています。

- 子どもから高齢者までが気軽に集える居場所づくりや、様々な交流ができる場や機会、趣味や特技を生かした活動の仲間づくりなどが、様々なところで広がっています。

- 災害や防犯への備え、地域での自助・共助の意識が高まっています。
- 子どもや高齢者、障害者などの権利が守られ、社会的支援が必要な人も安心して暮らせる地域づくりが進んでいます。

- 健康づくりや介護予防に気軽に参加することで、地域での活動を継続できる人が増えています。
- 介護や医療が必要な人に支援や情報が届き、医療・保健・福祉の連携が進んでいます。

取組目標

- 1-1 日頃からの顔の見える関係づくり
- 1-2 お互いに支え、支えられる関係づくり
- 1-3 多様性の理解の促進
- 1-4 家族支援(介護者・保護者・養育者の支援)の充実
- 2-1 多世代交流やふれあいの場・機会の拡大
- 2-2 趣味や特技を生かした活動のきっかけづくりや仲間づくり
- 2-3 多様な施設等が連携した場づくり
- 3-1 災害時の助けあいの仕組みづくり・犯罪等の発生を抑えるまちづくり
- 3-2 地域における権利擁護の推進
- 3-3 社会的支援が必要な人を支える仕組みづくり
- 4-1 身近な健康づくりの場・機会の拡大
- 4-2 地域で健康づくりの活動を行う人への支援
- 4-3 医療・保健・福祉の連携促進

18地区別計画

戸塚第一

戸塚第二

戸塚第三

踊場

北沢

舞岡

川上

柏尾

東戸塚

平戸

平戸平和台

上矢部

名瀬

大正

汲沢

上倉田

下倉田

吉田矢部

3 地域の様々な活動の継続・発展

地域の実情や特性に応じた取組を住民主体で展開するため、区役所、区社協、地域ケアプラザの三者が地域に寄り添いながら地区別計画を推進

4 取組の振り返りと改善

新たな課題にも的確に対応するため、年度ごとに効果や必要性を把握し、事業や取組を改善